

## 課題情報シート

テーマ名 :	塩飽大工伝承・交流館の計画と設計 —塩飽大工の歴史と技術・技能を伝える塩飽大工伝承・交流館—		
担当指導員名 :	山下 世為志	実施年度 :	27 年度
施設名 :	四国職業能力開発大学校		
課程名 :	専門課程	訓練科名 :	住居環境科
課題の区分 :	総合制作実習課題	学生数 :	1 人
		時間 :	22 単位 (396h)

## 課題制作・開発のポイント

## 【開発（制作）のポイント】

木加工など大工仕事の機械化が進む中、長い歴史の中で培われた塩飽諸島「本島」の塩飽大工の技術・技能は失われつつあります。島の大工は残り一人となり、その方も高齢という現状であります。この設計計画は、塩飽大工の歴史と技術・技能を後世に残していこうという「伝承」と島の活性化に繋がるような「交流」を主旨に始まりました。

伝承館は、記念館、木造校舎、蔵の三棟構成で成り立っています。「伝承」は、それぞれを塩飽大工の技術・技能を学び、忠実に建物の構成や特徴を取り入れることと、展示物によって表現しました。また「交流」は、建物をただ復元させ保存させるだけでなくハード面で建物の機能性を考慮しながらソフト面で島の活性化に繋がるように、島民の話し合いの場を設けること、働くことのできる空間そして医療の場を提案することで表現しました。

## 【訓練（指導）のポイント】

塩飽大工の歴史と技術・技能を検証するため、何度も本島町笠島地区に足を運び現存する建築物の調査や分析を行いました。また単なる塩飽大工伝承館の計画や設計では終わらないよう、倉敷美観地区で建築の保存と再生を手掛けるK社でのヒヤリングにより活性化に繋がる建物の活用の重要性を認識することができました。また既存施設として気仙大工左官伝承館の現地での調査も実施し、図面やヒヤリングにより多くの示唆を得ることができました。

調査や分析結果、知識を基に塩飽大工伝承・交流館の計画や設計に取り組む中で、図面としての表現だけではなく、3次元 CAD によるモデリングや CG 処理によるプレゼンテーション、アニメーションによる表現技術も習得し、設計主旨や建物活用ポイントが分かり易く伝わるよう表現することができました。

## 課題に関する問い合わせ先

**施設名** : 四国職業能力開発大学校  
**住所** : 〒763-0093 香川県丸亀市郡家町3202番地  
**電話番号** : 0877-24-6290 (代表)  
**施設 Web アドレス** : <http://www3.jeed.or.jp/kagawa/college/index.html>

## 課題制作・開発の「予稿」および「テーマ設定シート」

次のページ以降に、本課題の「予稿」および「テーマ設定シート」を掲載しています。

# 塩飽大工伝承・交流館の計画と設計

## —塩飽大工の歴史と技術・技能を伝える伝承・交流館—

### Shiwaku planning and design of the carpenter tradition - Exchange Center

住居環境科 木村亮太

#### 1. はじめに

塩飽大工とは、塩飽諸島の本島を中心とした島々からなる諸島出身の大工の総称である。現在、「最後の塩飽大工」と称される高島昭夫氏は、その伝統と工法を受け継いでいる。しかし、約10年前に大工職を引退され、その技を受け継ぐ人はいない現状にある。



図1 真木邸

#### 2. 研究目的

木造建築では、材料加工のプレカット化や機械化が進む中、大工の就業率は下がり、その伝統的技術・技能を後世に伝えていく機会はありません。

そこで、失われつつある塩飽大工の伝統を後世に伝承し、島の活性化に繋がる塩飽大工伝承・交流館を提案することを目的とする。

#### 3. 研究計画

本研究を行う上での研究項目を以下に挙げる。

- ① 文献調査
- ② 現存する塩飽大工に関連する建築物の調査
- ③ 塩飽大工や家主の聞き取り調査
- ④ 他資料館・伝承館見学
- ⑤ 塩飽大工伝承館の設計計画
- ⑥ 3Dモデリングとプレゼンテーション

#### 4. 研究の経過

これまでの研究経過を以下の表1に示す。

表1 研究経過

調査日	調査対象または調査場所
7月5日	瀬戸内海歴史民族資料館
7月25日	瀬戸内海歴史民族資料館
8月22日	長安寺
8月23日	気仙大工・左官伝承館
10月23日	本島現地調査(1)
11月13日	本島現地調査(2)
12月10日	倉敷美観地区調査
12月11日	岡山県矢掛町調査

##### 4.1 瀬戸内海歴史民族資料館について

展示室は、中庭を囲むように構成された回廊式である。屋上展望台に立つと、備讃瀬戸の風景が目前に広がる。塩飽大工に関する資料や展示物は少なく、塩飽大工の道具や船に関する資料があった。

##### 4.2 気仙大工と長安寺について

気仙大工とは、岩手県沿岸部の気仙地方で地縁血縁の中で結成された大工集団のことである。

長安寺は、寛政10年に建立された歴史的にも貴重な建築物である。彫り物や、山門内の小屋組などその迫力や造形美に感動した。

##### 4.3 気仙大工・左官伝承館について

受付棟、古民家、蔵の三棟構成になっている。受付棟では、資料を展示している。古民家は、梁算段を用いて作られた小屋組や、格子、彫刻などを見ることが出来る。蔵では、気仙大工が使用していた大工道具が並んでいる。しかし、約30箇所の間違ひがあり、あくまでも気仙大工の技術や技法を真似たものに過ぎないと言われている。

#### 4.4 塩飽本島現地調査(1)

塩飽工業補修学校は、その時代の工業人を育成したいという塩飽の人々の願いを受けて作られたとされている。聞き取り調査によると補習学校跡地は現在、農地となっていた。また笠島では、厨子二階の町屋建築の街並みが広がる。この地区の住宅は、焼杉と漆喰の外観、太く曲がった材を用いて与次郎小屋組を構成していた。

#### 4.5 塩飽本島現地調査(2)

塩飽工業補習学校の手がかりを得るため、映画「機関車先生」のロケ地や、夫婦倉、正覚院、木鳥神社などを訪れた。ロケ地は元々、島の子供たちの臨海学校として使われていた。構造は、空間を大きくとるような形であったが今まで見てきた与次郎小屋組ではなかった。補習学校に関する資料が少ない中、建物の構造などを知る貴重な資料となった。

#### 4.6 倉敷美観地区・岡山県矢掛町調査

料理旅館 鶴形は、約270年の歴史を刻んだ由緒ある旅館である。母屋2階、大広間では、太く曲がった材を用いて構成された与次郎小屋組を見ることができる。国指定重要文化財の大橋家住宅でも同様に、与次郎小屋組を見ることができた。

また、同一敷地内にある蔵は、1階を展示スペースとして設けており、2階の小屋組は与次郎小屋組となっていた。

岡山県矢掛町で重要文化財の旧矢掛本陣石井家住宅は、1832年頃に建てられた。蔵で与次郎小屋組を見ることができた。

しかし、棟札など塩飽大工が手がけたとされる手がかりを見つけることはできなかった。

### 5. 塩飽大工伝承・交流館の計画と設計

塩飽工業補習学校跡地である農地を想定敷地とした。計画にあたり、建物を「残す」よりも「生きる」ようにすることを重要視した。その答えとして「建物」というハードに「人」というソフトを取り入れることにした。また、建物の名前にあるように

「伝承」は、塩飽大工の技術・技能・歴史を学び、忠実に建物の構成や特徴を取り入れることや展示物によって表現し、「交流」は建物を復元させ保存させるだけでなく、ハード面で建物の機能性を考慮しながらソフト面で島の活性化に繋がるように島民の話し合いの場を設けたり、働くことのできる空間そして医療の場を提案したりすることで表現した。建物は、気仙大工・左官伝承館にならって記念館、木造校舎、蔵の三棟構成とした。記念館は、玄関としてゲートの役割を持たせるだけでなく、診療所やレストラン、話し合いの場を提案した。また、塩飽大工が得意としている与次郎小屋組を取り入れること、歴史や技能、技術の伝承として展示スペースを設けた。木造校舎では、島の工房で木工に取り組んだり、多目的室で、様々な行事に柔軟に対応できたりする空間を提案した。また、小屋裏のスペースを展示スペースとして利用するために与次郎小屋組を取り入れた。蔵では、塩飽大工が使用していた大工道具を展示するスペースとして提案した。

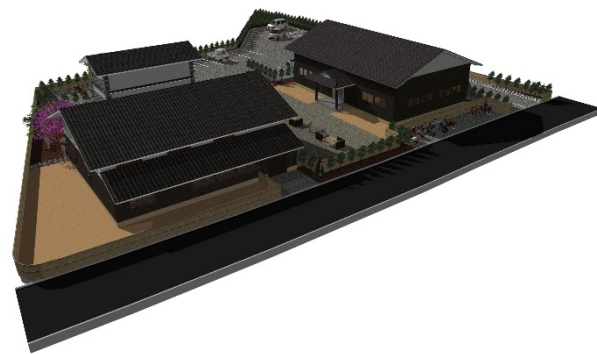


図2 塩飽大工伝承・交流館

### 6. おわりに

この塩飽大工伝承・交流館で、塩飽大工について学ぶ機会が増えて歴史や技術、技能が伝承され、島の住人の働く場所や、島の人々が交流する場所となり島全体が活性化することを期待したい。

## 課題実習「テーマ設定シート」

作成日： 10月 30日

科名：住居環境科

教科の科目	実習テーマ名	
総合制作実習	塩飽大工伝承・交流館の計画と設計 —塩飽大工の歴史と技術・技能を伝える伝承・交流館—	
担当教員	担当学生	
住居環境科 山下 世為志		
課題実習の技能・技術習得目標		
<p>塩飽大工の歴史と技術・技能や現存する建築物の調査法や分析法を習得し、建築計画や設計技術に繋げて塩飽大工伝承館の計画と設計を提案すること目標とする。また、課題に取り組む中で3次元CADによるモデリングやCG処理によるプレゼンテーション技術も習得目標とする。</p>		
実習テーマの設定背景・取組目標		
実習テーマの設定背景		
<p>塩飽大工とは、備讃瀬戸の本島(塩飽島)を中心とした島々からなる諸島出身の大工の総称である。塩飽大工は、元々優れた造船技術と操船技術を持っていた大工集団であり、時代の変遷とともに香川県讃岐地方や岡山県備中地方を活動の中心とした宮大工、家大工へとなっていた。現在、塩飽諸島の一部である丸亀市本島で「最後の塩飽大工」と称される高島昭夫氏は、江戸時代より続く塩飽大工の4代目であり、その伝統と工法を受け継いでいる。しかし、約10年前に大工職を引退され、その技を受け継ぐ人はいない現状にある。そこで、塩飽大工の歴史と技術・技能を伝える塩飽大工伝承館を計画し、設計提案することとする。</p>		
実習テーマの特徴・概要		
<p>塩飽大工に関する文献・資料などは数多く存在するが、文字では著せることのできない伝統的な技術・技能がある。木造建築において、大工の就業率が下がる一方、材料のプレカット化や機械化の進む中で伝統的工法や技術・技能は衰退していくばかりである。これまで日本が培ってきた技術・技能が失われつつある中、その伝統的技術・技能を後世に伝えていく機会はありません。そこで、本研究では、塩飽諸島本島で現在は畑となってしまった塩飽工業補修学校を復元し、新たに塩飽大工伝承館を計画することにより、塩飽大工を養成し、失われつつある塩飽大工の歴史、技術・技能について後世に伝承することを目的とする。この実習テーマを完成することにより総合的な企画・設計技術の教育訓練効果が得られる。</p>		
No	取組目標	
①	塩飽大工に関する文献・資料などを調査して報告ができる。	
②	現存する塩飽大工に関連する建築物の調査ができる。	
③	塩飽大工に関する聞き取り調査ができる。	
④	他資料館・伝承館の調査分析ができる。	
⑤	各種設計図面が作成できる。	
⑥	3次元CADによるモデリングができる。	
⑦	3次元CADによる各種図面(平面図、断面図、立面図)が作成できる。	
⑧	3次元CADによるCGパース図面の作成ができる。	
⑨	3次元CADによるアニメーションの作成ができる。	
⑩	全体的プレゼンテーションができ、報告書や発表会予稿原稿を作成し、発表会では制限時間内に伝えたい内容を説明できる。	